

支部だより

発行
東北大学
電気系
同窓会東北支部
仙台市荒巻字青葉
電話 22-1800
発行責任者
和田正信
(題字 高野知彦氏)

渡辺寧先生を偲んで

高野 知彦

渡辺先生御逝去

報告

電気系同窓会 永井 健三

会員の皆様は既に御承知のことと思いますが、今回は恩師渡辺寧先生のご逝去のご報告をせねばなりません。渡辺寧先生には、かねてご不快でおられました。昭和五十一年十一月十七日午後八時突然ご他界になりました。今や我等弟子達は幽明境をこなし、かつてのお元氣なお姿に接することが出来なくなり、同窓会々員一同は悲しみの極に達し、哀惜の情にたえまません。

昭和五十一年は電気系同窓会にとって誠に不幸な年でした。一月には八木先生を失い、八月には宇田先生を、九月には小林勝一郎先生を失い、今また渡辺先生のご逝去の報告をせねばならぬとは、同窓会にとつて、よくよく悪い年だったと思えます。

十六年には電気通信研究所長を併任、昭和三十年には工学部長の要職を務められました。その間評議員として教育、研究ならびに大学の運営管理に種々の仕事をされましたが、特に電気通信研究所の最初の建物は渡辺教授によって建てられたものであります。

昭和三十五年ご定年と共に静岡大学の要請により静岡大学学長に就任されました。静岡大学には満九年の長きにわたって、その整備発展に寄与されました。静岡大学ご退官後も東海大学客員教授を務められ、先生は一生を通じて研究と学生の教育と指導に専念されました。

先生は茨城県久慈市の御出身で旧制一高を経て東大工学部電気工学科を大正一〇年に御卒業になり、直ちに講師として東北大学工学部電気工学科に御赴任になり、翌年助教として独逸を主とする海外留学から帰られて昭和四年教授に昇任されました。

先生は茨城県久慈市の御出身で旧制一高を経て東大工学部電気工学科を大正一〇年に御卒業になり、直ちに講師として東北大学工学部電気工学科に御赴任になり、翌年助教として独逸を主とする海外留学から帰られて昭和四年教授に昇任されました。



故渡辺寧先生

渡辺先生は日立市のご出身で大正十年東京帝国大学工学部電気工学科を卒業になり直ちに東北帝国大学工学部電気工学科にご就職になりました。翌大正十一年には助教になり、次いで昭和四年には教授に昇任されました。大正十年仙台にいられた。大正十年仙台にいられた。大正十年仙台にいられた。

先生は戦前、戦時中電気試験所技師及び海軍技師をも兼ねられ技術の面で多くの功績を残しておられます。先生はまた日本學術会議委員、電波技術審議会委員、電気学会会長等を歴任され我が国の學術の振興に尽くされた功績も極めて大であります。これらの先生の業績は学会からも社界からも高く評価され

先生は戦前、戦時中電気試験所技師及び海軍技師をも兼ねられ技術の面で多くの功績を残しておられます。先生はまた日本學術会議委員、電波技術審議会委員、電気学会会長等を歴任され我が国の學術の振興に尽くされた功績も極めて大であります。これらの先生の業績は学会からも社界からも高く評価され

先生は戦前、戦時中電気試験所技師及び海軍技師をも兼ねられ技術の面で多くの功績を残しておられます。先生はまた日本學術会議委員、電波技術審議会委員、電気学会会長等を歴任され我が国の學術の振興に尽くされた功績も極めて大であります。これらの先生の業績は学会からも社界からも高く評価され

恩師、渡辺先生

八田 吉典

渡辺先生が亡くなられてから、早くも一年近くたった。しかし慈父を失ったような寂寥感はずいぶん去らない。思い起こせば昭和十七年渡辺研究室に入門させていただいて以来、私はずっと渡辺先生の御指導を受けてきた。

先生は威厳のある教育者である反面、慈父のような、あたたかい態度で学生に接せられた。大変スケールの大きな方で研究指導においても、あまり細かいことは指示されなかつた。私が卒業して、渡辺研究室の職員となった時も、「おまえは放電管をやれ。」と言われただけで、あとは一切私の自由にまかせられた。しかし先生自らの熱意のこもった研究態度に私は大きな影響を受けた。先生は真理探求を何よりも愛され、また常に独創的研究に取り組んでおられた。用事があって教授

られます。又電波審議会委員、学会会長副会長、日本学術会議会員等として科学技術振興の爲めに尽された。又一面教育にも極めて熱心で先生の場合研究と教育とは一体となつて居た様な感じでした。

「おのれの良きは語らず、人の悪しきは語らず」と古語にありますが、先生は全くその通りで自分のことはあまり口に出されなかつた。

先生の早朝起床についても直接には何も承ったことはなかつたのですが、御停年のたしか一年位前のある日と伺つて見ました。

「ウン普通四時或は三時に起きる。忙しい時には二時でも何時でも起きるよ。」と言葉少な目に語られた。実に先生は四〇年或はそれ以上にも亘つて早朝起床を続けて来られたのであります。研究の内容とその他の数において他に比を見ないと謂はれて居る様ですが、これは頭脳明晰のみならず比類なき御精勵あつた事でありましょう。

先生の御部屋に伺うと

いつも何かの原稿を書いて居られる様でした。外国雑誌等も家に持ち帰られて早朝に目を通して居られたのであります。

Ⅰ、温情

知能の優れた人の中には近より難いとか、冷たい感じの人も少くないと謂われて居る様であります。先生の場合には何となく暖かい、赤外線でも出て居る様な暖みを感じられる。接すれば接する程感謝と感激が多くなると多くの人が述べて居られます。真の教育は言葉ばかりではない。実践であり、人徳であり感化であり、感化である。実践なき処に感化はないし、人徳なき処に感化は薄い。先生が偉大なる教育者でもあつたと謂われて居る所以であります。

Ⅲ、スポーツ
先生はリクリエーション的なことは殆んど何もして居られない様でしたが、スポーツは学生時代からお好きだつた様で、四〇代でも野球では喜んで投手を引き受けられました。冬はよくスキーに行かれました。昭和八年の

の必然性を経て、連続的に進展されたと思ふ。たとえば、電気機械の研究で、直流機の火花除去の為に水銀整流機を用いる研究から自然に放電管の研究に移られた。ついで放電管研究の必要から気体放電の理論の研究と取り組まれ、次第に物性に興味を持たれるようになった。そして電子放出の研究からだん半導体に関心を持たれるようになり、本格的な半導体電子工学の研究へと進まれたのであつた。このような研究態度に、私は強い影響を受けたと思つて居る。

先生は昭和二十七年に通研所長になられ、ついで昭和三十一年に工学部長になられた。そして定年後は御承知のように静岡大学学長を九年もつとめられた。先生は管理職をお好みで、偉大な教育者であり研究者である先生がその

幕蔵王に行かれた時直滑降で太ももにかなり打撲症を受けられ三日程俄々温泉で休養されたのですが一月二日の朝、何とか歩けそうだから出懸け様」と謂われて宿を後にしました。賽の河原から上には人影は全くなかつた。あまりに良い粉雪だったので刈田の頂上まで登りつめ、下りは実に快適だつた。翌年夏に齊藤君と二人先生から吾妻警備隊のお誘いを受けた。二日目西吾妻の頂上を過ぎて間もなく猛烈な雷雨に見舞われたが幸い近くの堀立小屋に駆け込んで助かった。先生は悪路でも登りがきつくと、吹き火の煙で眠れなくとも温容変らずで、山の自然を味わう心は深く高いものがあると感じた次第でした。

Ⅱ、先生は東北大学電気通信研究所長を二期引き続き工学部長を二期務められ、昭和三五年四月名譽教授になられたと同時に要望によつて静岡大学長に就任された。その後の事について静岡大学の某教授は次の様に述べて居ました。(*へつづく)

椅子にすわつて居るだけで、さまになったのだと思つて居る。工学部長になられた時、まず最初に事務室職員の名前と顔を覚えようとされた。「写真と顔を何度も見くらべるので、職員達は何をされて居るのかと思つたらうなあ。」と言つておられたが、いかにも先生の人柄をしのばせることではないか。しかし管理職の仕事は先生の大きい負担であつたようで、毎週一回の研究室のゼミに出席されると「やつとこれではつと」とよく言つておられた。先生の偉大さを短い文章にあらわすことはとてもできることではない。およそ人生において、よき節に恵まれることが最大の幸福の一つであると思うが、私は渡辺先生のような偉大な先生を師とおおいてきて本當に幸せであつたと思つて居る。

(*よりつづく)
改選の時渡辺学長は満票に近い支持で再選されました。そして静岡大学に大学院の設置がきまり(昭三九)次いで電子工学研究所の設置が本きまりとなつて遂に新制大学に対し固く閉ざされて居た門戸は開かれることになつたのであります。そして静岡大学は新制大学のトップクラスと認められる様になつた訳ですがこれ備えに渡辺先生の御人徳と御努力の賜と感謝して居ます。吾々は次の時代に東北大学学長として

東北大学電気系学科の近況

電気系運営委員会

東北大学の工学部がこゝ青葉山に引越を開始してから早や一二年電気系が現在の建物に引越してから丁度十年になりました。同窓会の会員の中にも、一度は青葉山キャンパスを訪れた方が多いのではないかと思つて居ます。環境整備や学生、職員の厚生施設、さらには最も大切な研究設備などの面でもまだまだ遅れた面が多いのですが一応の研究教育体制は整つたと考えられます。今後は、内容の充実が望まれるわけですが、最近の物価の高騰に對する講座経常費の据え置きなど今後の大学における研究の危機的要素もひしひしと感ぜられます。

さて、電気系学科についてですが、昭和五二年度は安達(電気)が教務担当、清水(通信)が経理担当(兼運営委員)、柴田(電子)が庶務担当の各主任教授として学科の運営に當つて居ります。夏休みも終りに近く、そろそろ学生の就職指導が始まる時期となりました。幸いに電気関係は他の業種に比較すれば不況の度は少ないようですが、諸先輩の御支援を得なければと考へております。どうぞ宜しくお願い致します。

戻られることを期待して居たのであります。一方、各地に分散して居る学部は統合移転、文理学部の改組、等難事業の進行中であつた静岡大学では学長選挙内規を改めて先生の絶体三選を期して居たわけです。昭和四五年には文化功勞賞を受けられたのは正三位勲一等瑞宝章が贈られて居ます。以上百人巨象を撫でるの類で先生の片鱗にふれましたが、謹んで先生の御冥福をお祈り申し上げます。

大学院の方は、村上教授(電通専攻)、稲場教授(電子専攻)、佐藤教授(情報専攻)が専攻主任として主として教務関係、就職の世話に當つて居ります。既に御存知の方も多いと思つて居ますが、最近、本学では大学院は博士課程一本になり、従来の修士、博士課程は前期課程、後期課程と呼ばれるようになりました。ただし、修士の称号はこれまで通り前期課程修了の者に与えられます。情報専攻については一言お伝えいたしますと、本年度、第三番目の講座として計算機工学講座の新設が認められました。これを機会に、情報工学専攻の基礎となる3講座で、工学部内に新しく情報工学教室を充足させることになりました。情報工学専攻の建築物の新築も認められ、現在工学部の西端に建築中ですが、これまで同居して居りました応用物理学と相談の結果、新しい建物には応用物理学が移転し、情報工学教室はこれまで通り電気系の建物にとゞまつて、電気系3学科と一体的に運営してゆくことになりました。なお、これに伴つて来年度からは、電気系と応物の学生募集は別々に行なわれること

になりました。この一年間の人事異動についてお伝えします。一年間スタンフォード研究所に在外研究員として出張しておられた清水教授は今年四月元氣に帰国され、前述のように、運営委員長として活躍していただいております。中村信良助手が昨年一月電気音響工学講座(通信)の助教授に、菊地新喜講師(一般工学)が今年四月応用電力工学講座(電気)の助教授にそれぞれ昇任されました。長期出張者としては、現在西関助教授が今年三月から米国カーネギー・メロン大学に渡辺助教授が八月からカナダのマニトバ大学へそれぞれ一年間の予定で留学中です。

最後に電気系三学科の教授、助教授の構成を以下に記しておきます。

電気工学科は、二村忠元、麻生忠雄、村上孝一、竹田宏、安達三郎、の各教授と、千葉二郎、曾根敏夫、後藤幸弘、大沼俊朗、阿部健一、菊地新喜の各助教授、通信工学科は、虫明康人、星子幸男、清水洋、齊藤伸自、高木相の教授と、齊藤恒雄、石曾根孝之、西関隆夫、中村信良の各助教授、電子工学科は、和田正信、八田吉典、松尾正之、柴田幸男、併任の吉田重知の各教授、佐藤徳芳、針生尚、樋口龍雄、渡辺英夫、星宮望の各助教授、情報工学教室は、佐藤利三郎、木村正行の各教授、長沢庸二、丸岡章の各助教授となつて居ります。なお、電気工学科から二年間一般工学科の方へ出向して居りました穴山武教授と脇山徳雄助教授は引き続き同教室の一般電気工学講座を担当して居ります。

以上、電気系学科の近況を簡単に御報告いたしました。

電気通信研究所の近況

通研広報委員会

今年は異常気象とかで、七夕過ぎから、八月というのにつゆのよ...

先生の御業績の大きさを思い、身のひきしまる思いです。一昨年40周年を迎えた通研は現...

Table with 4 columns: 部門名, 教授, 助教, 助手. Lists various departments like 音響通信, 電気通信方式, 固体電子工学, etc.

同窓生だより

東北学院大学工学部 宮本敏彦

仙台駅から仙石線で約二十分、多賀城址、末の松山など旧跡の多い町、多賀場市の旭ヶ岡...

山形大学工学部 大内隆夫
山形大学は山形県山形市にあり、山形県庁の南西にあり、山形市は山形県庁の南西にあり、山形市は山形県庁の南西にあり...

